

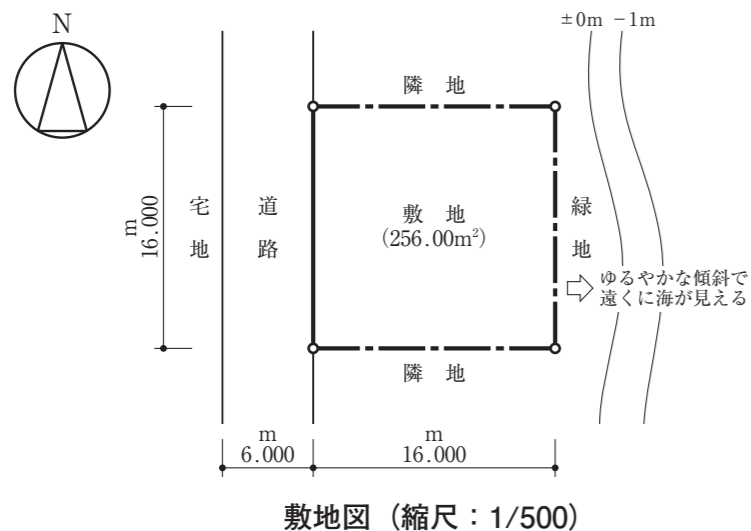
設計課題 「景勝地に建つ土間スペースのある週末住宅(木造2階建て)」

1. 設計条件

- ある地方都市の海の見える景勝地において、自然の中で夫婦の趣味であるガーデニングを楽しむことのできる、土間スペースのある週末住宅を計画する。
- 計画に当たっては、次の①～⑤に特に留意する。
- ①土間スペースは、家族や友人が集まってつろく「居間」として計画し、食事室・台所と一体的に利用できるようにする。
- ②食事室・台所には隣接して展望テラスを設け、食事室・台所から直接行き来できるように計画する。
- ③展望テラスは、東側の海を眺めに配慮した計画とする。
- ④住宅の段差については将来の高齢化に配慮して180mm以下となるようにする。
- ⑤建築物の耐震性を確保する。

(1) 敷地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。
- イ. 都市計画区域及び準都市計画区域以外の区域内にあるが、景観保全のため、建ぺい率の限度は50%、容積率の限度は100%とする。
- ウ. 地形について敷地の東側の緑地は東下がり傾斜しているが、当該敷地は平坦で、道路、南北隣地との高低差はない。また、地盤は良好である。
- エ. 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。



敷地図 (縮尺: 1/500)

(2) 構造、階数及び建築物の高さ

- ア. 木造2階建とする。
- イ. 建築物の最高の高さは10m以下、かつ、軒の高さは7m以下とする。

(3) 延べ面積

- 必ず「160㎡以上、200㎡以下」とする。
- (床面積については、ピロティ、玄関ポーチ、展望テラス、駐車スペース等は算入しないものとする。)

(4) 家族構成

夫婦(40歳代)、子ども2人(女子小学生)

(5) 要求室

下表のすべての室は、必ず指定された設置階に計画する。

設置階	室名	特記事項	床面積
1階	玄関	・下足入れを設ける。	適宜
	ゲストルーム	ア. 洋室とし、ベッド(計2台)、ウォークインクローゼット(3㎡以上)を設ける。 イ. 家族の利用動線との分離に配慮する。	13㎡以上 (ウォークインクローゼットを除く)
	食事室・台所	ア. 1室にまとめてよい。 イ. 食事室には、テーブル及び椅子(計4席以上)を設ける。	適宜
	居間(土間スペース)	ア. 食事室・台所と一体的に利用できるようにする。 イ. テーブル(いす6席)を1卓設ける。 ウ. 和室と直接行き来できるようにする。 エ. 家族や友人との団らん、ガーデニング作業の休憩等にも利用する。	
	和室	ア. 広さは、心々3,640mm×2,730mm以上とする。 イ. 別に押入れ、床の間を設ける。	
	ガーデニング用倉庫	ア. 花壇において使用する備品等を保管する。 イ. 外部から利用できるようにする。	適宜
	洗面脱衣室	ア. 広さは、心々1,820mm×2,730mm以上とする。 イ. 東側の海を眺められるように計画する。	
便所(1)	・広さは、心々1,365mm×1,820mm以上とする。	4㎡以上	
2階	夫婦寝室	ア. 洋室とし、ベッド(計2台)、収納を設ける。 イ. 東側の海を眺められるように計画する。	適宜
	子ども室	・洋室とし、ベッド(計2台)、収納を設ける。	13㎡以上 (収納を除く)
	多目的スペース	ア. 夫婦及び子どもが読書・談話など自由に利用する。 イ. カウンター、椅子、収納を設ける。 ウ. 東側の海を眺められるように計画する。	適宜
	便所(2)		
	洗面所	ア. 便所(2)に隣接して設ける。 イ. コーナーとしてもよい。	
納戸			

(注) 1階の廊下の有効幅は、1,200mm以上とする。

(6) 屋外施設等

屋外に下表のものを計画する。

展望テラス	ア. 外で気軽に食事ができるように食事室・台所に隣接させ、直接行き来できるようにする。 イ. テーブル(いす4席)を1卓設ける。 ウ. 居間(土間スペース)からも直接行き来できるようにするとともに、段差に配慮する。 エ. 10㎡以上とし、まとまったスペースとする。
花壇	・15㎡以上とし、まとまったスペース(少なくとも、直径2m以上の円が1つ入るスペース)とする。
駐車スペース	・ゲスト用も含め、計2台分の駐車スペースを設ける。

2. 要求図書

- ア. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する(寸法線は、枠外にはみだして記入してもよい)。
- イ. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- ウ. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(部分詳細図(断面)にあつては、10mm)である。
- エ. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてもよいものとする。

要求図書( )内は縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図(1/100)	ア. 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを記入する。 ・建築物の主要な寸法 ・室名等 ・「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」には△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう(以下同じ)。 ・断面図の切断位置及び方向
(2) 2階平面図(1/100)	イ. 1階平面図兼配置図には、次のものを記入する。 ・敷地境界線と建築物との距離 ・道路から建築物へのアプローチ、駐車スペース、門、塀、植栽等 ・道路から敷地及び建築物への出入口には、▲印を付ける。 ・展望テラスには、テーブル、椅子 ・各要求室(食事室・台所、ゲストルーム、和室)の床高、居間(土間スペース)、玄関ポーチ、玄関の土間及び展望テラスの地盤面からの高さ ・玄関…下足入れ ・居間(土間スペース)…テーブル、椅子 ・食事室・台所…テーブル、椅子、台所設備機器(流し台・調理台・コンロ台、冷蔵庫等) ・ゲストルーム…ベッド ・便所(1)…洋式便器、手洗い器 ・洗面脱衣室…洗面台、洗濯機 ・浴室…浴槽
(3) 2階床伏図兼1階小屋伏図(1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階の管柱、胴差、2階床梁、桁、小屋梁、火打梁、棟木、母屋、小屋束など必要なもの)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太及び垂木については、記入しなくてよい。 イ. 2階床伏図において、火打梁の代わりに、構造用材による床組とする場合には、胴差、床梁、桁を記入したうえで構造用材の厚さ、釘の種類・打付け間隔を明記する。 ウ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。 エ. 建築物の主要な寸法を記入する。
(4) 立面図(1/100)	ア. 東側立面図とする。 イ. 建築物の最高の高さを記入する。 ウ. 展望テラスについては、外観で見える場合に記入する。
(5) 断面図(1/100)	ア. 切断位置は、南北方向とし、居間(土間スペース)及び1階・2階それぞれの開口部を含む部分とする。 イ. 建築物の外形、床面及び天井面の形状がわかる程度のものとし、構造部材(梁、基礎等)、見え掛かりの開口部、階段等(室の対向に見えるもの)については、記入しなくてよい。 ウ. 建築物の最高の高さ、軒高、階高、天井高、1階床高、開口部の内法寸法及び主要な室名等を記入する。
(6) 部分詳細図(断面)(1/20)	ア. 2階の外壁の開口部を含む2階床組部分の詳細図とする。 イ. 作図の範囲は、水平方向については柱心から1,000mm以上とし、垂直方向については2階床高から上下1,000mm以上とする。 ウ. 部分詳細図として支障のない程度であれば、水平方向及び垂直方向の作図上の省略は、行ってもよいものとする。 エ. 主要部材(胴差、2階床梁、2階根太など必要なもの)の名称・断面寸法を記入する。 オ. 羽子板ボルト等の名称・寸法を記入する。 カ. 外壁、その他必要と思われる部分の断熱・防湿措置を記入する。 キ. 室名及び内外の主要な部位(外壁、床、内壁、天井)の仕上材料名を記入する。
(7) 面積表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 計算結果は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。
(8) 仕上表	ア. 主要な屋根の勾配を記入する。 イ. 外部の主要な部位(屋根、外壁)の仕上材料名及び地下材料名を記入する。 ウ. 内部(土間スペース)の主要な部位(天井、内壁、床)の仕上材料名及び地下材料名を記入する。
(9) 計画の要点等	・建築物及び敷地の計画に関する次の①～③について、具体的に記述する。 ①道路から建築物へのアプローチについて、工夫した点 ②居間(土間スペース)の計画について、工夫した点 ③要求室の配置について、工夫した点

下書欄 (目盛4.55mm)

Grid area for drawing and writing answers.

会員番号	氏名	受験地
------	----	-----